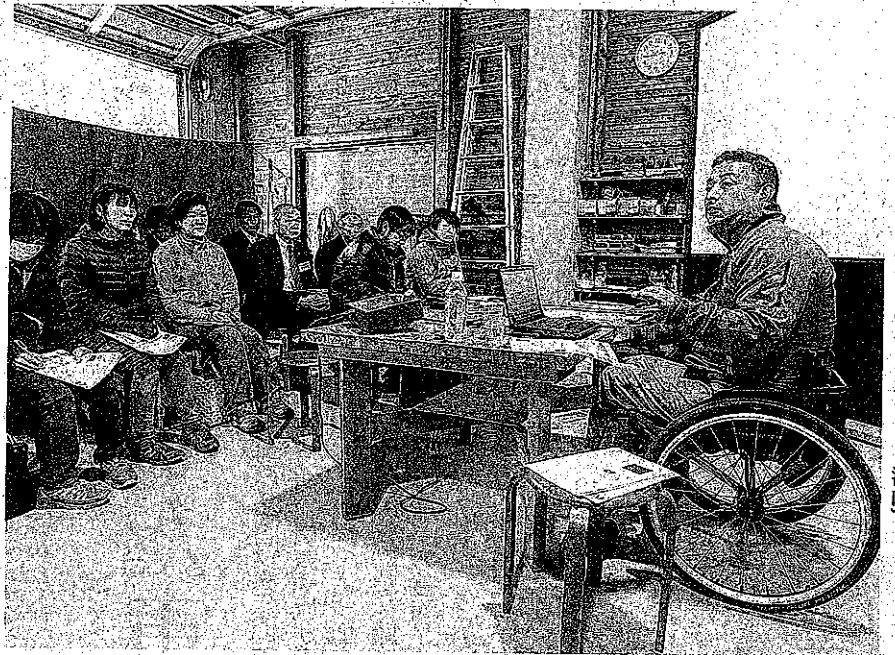


障害あっても自由に観光を

世界を車いすで旅行 木島さん紀北で講演

障害者の「行ける所」でなく「行きたい所」への観光を実現する「バリアフリー・アクティビティ」をテーマにした観光案内研修が十六日、紀北町便ノ山のキャンプ・inn海山であった。車いすで百五十七カ国を旅した木島英登さん(四四)＝大阪府＝が講演し、海外のバリアフリー事情を紹介した。

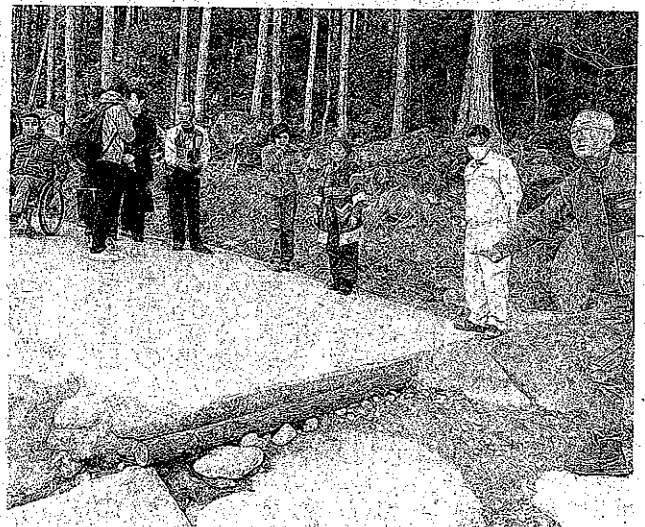
(長崎高太)



海外のバリアフリー事情を語る木島さん(四四)＝大阪府＝。左から紀北町便ノ山のキャンプ・inn海山で。

海外のバリアフリー事情紹介「ハードよりハート大切」

木島さんは高校三年のは整っているが、「ハー時、ラグビー部の練習中「ド」よりも「ハート」がに脊髄を損傷して車いす「大切」と、周りの人の意識に。大学一年の夏休、識の持ち方が重要だとしみに訪れた米国で「障害者」でなく「個人」として見てもらったことに、海山を運営するふるさ感激し、頻りに海外を訪と企画舎の田上至理事長れるようになったという(金)が、同施設のバリアエピソードを紹介した。フリーの取り組みについて、外国ではモロッコでラて説明。銚子川の魅力をグダに乗ったり、ニュー障害者にも伝えるため、ジラントでパンジーシ一年前にカヌー乗り場にヤンプに挑戦したりしたスロープを付けた事例をとい「できるかできない披露し、現地を案内した。いかではなく、やりたい。同研修は伊勢志摩バリーかやりたくないかで考えアフリーツアーセンター」と強調。「福祉が進の主権。周辺市町や観光んていると思われている協会の職員、観光業者ら北欧より日本の方が設備約二十人が参加した。



カヌー乗り場を案内する田上理事長(右)